

# あだたら

第426号  
発行所  
郡山市喜久田町  
あだたら山の会

四月二十九日(月)

## 第六十七回定期総会

報告・編集部



乾杯



手締め

●編集部長連絡先  
二本松市郡内一五五一  
0243(22)4245  
FAX可・渡辺 正

第六十七回の定期総会は、四月二十九日(月)、本町「アーバンホテル二本松」で開催された。総会では、執行部提案の今年度山行計画・予算が承認された。今年度は、主に市民向けの「初心者向け登山教室」が開催される。毎月の例会ではテキスト「登山入門(ヤマケイ登山学校編)」を使った座学が、月例登山等で実技が行われる。総会には会員二十五名が参加した。

総会終了後、山岳懇親会が行われた。来賓の二本松市長□□□□・二本松スポーツ協会会長□□□□の各氏から御挨拶を戴いた。



懇親会



市長挨拶



湯川溪谷登山道(下)  
報告・編集

四月二十二日(月)

良く晴れて温かな日、登山道に雪は無かった。参加人数少なかつたが、引き揚げておいた、アルミの橋、全部(三基)、架け直す事が出来た。固定は二十九日に行う事とする。屏風岩向の棧橋と、僧悟台に向かう「馬返し橋」、橋材が脆くなっているのので、新しい材料で架け直しをする。



脆さが目に見える馬返し橋



屏風岩向棧橋

四月六日(土)

## 元副会長、□□さん逝去



2013(平成25)-1月1日  
正月山行、奥岳

四月六日(月)午前十時三十四分、前副会長□□□□さんがお亡くなりになりました。八十三歳でした。娘さんと奥さんから午後八時十一分に連絡頂きました。□□さんは、平成三十三年、平成二十二年迄副会長。昭和五十一年には二本松市体育功労者表彰を受けられました。毎年正月は必ず安達太良山頂で迎えられ、私達も□□もお供しています。ご冥福をお祈りします。

### 弔辞

□□さんの御霊前に、謹んでお別れの言葉を申し上げます。本来であればご葬儀に参列すべきところですが、遠方にてかなわらず、誠に申し訳ございません。□□さんとの出会いは、私があだたら山の会に入会した時で入会した当初は勝手ながら分らないでいたが、良いのか困っていた私に「会にとらわれず自分の好きなように山に登れば良いよ」とお話しいただき、まだ経験も技術もない私が冬の八ヶ岳に登りたいと自分の

未熟さも理解しないでままにお話しした時も、決して頭ごなし注意するのではなく「行ってダメなら引き返せば良いから」とご自身が登った時のお話を詳細にお話して、私の未熟さを優しく諭してくれました。普通なら若輩の私など、一蹴にして注意するところでしょうが、優しいお人柄が誰でも感じる事ができたと思えます。五十六年と長きに渡って、山の会運営にご尽力いただき副会長としても七年間、会を支えてくれた事は若輩である私などが語らずとも多くの方がご存じだと

思います。その功績から昭和五十一年には二本松市体育功労者表彰も受賞され。長年、山の会を支えてくれた方がいなくなり不安で一杯ではありますが□□さんの思いを継いで、強く結束を固めていく所存です。

安達太良山の山頂に会いに行きますから、これから山の上から私たち見守っててください。

これまで本当にありがとうございました。ご冥福をお祈りください。令和六年四月十日  
あだたら山の会  
会長 □□ □□



大分以前に事務局が□□さんに読み込ませて頂いた写真。裏には、1967(昭和42)年6月との記載があった。「あだたらヒュッテ(からまつ山荘)昭和49年焼失」は□□さんの勤務先だった。

四月山行・蓬田岳

四月十四日 (E)



蓬田岳山頂

◆□□□□□ □□□□□  
 蓬田岳は別名では平田富士とも地元で親しまれ、郡山市、須賀川市、平田村の境界にあり東北百名山、日本百低山、うつくしま百名山に選定されている。山頂部南北側には菅布禰(すがふね、菅船とも)神社が祀られており、展望もよく太平洋まで見渡せて多くの登山者が休んでいた。奥にはNHK、民間局統合の中継放送局もあり他の山より構造物が少ないので山頂景観は良いと思う。(低山には林立している山が少なくない)すぐ山頂の蓬田岳九五二mと大きく表示板、前には一等三角点の標石があり、大切にしましょう三角点とあり、設置するまではご苦労がいったいあったと

◆□□□□□ □□□□□  
 思います。近くには今回計画した下道分岐冒険コースがあったが登山道の崩落がありロープで通行止めとしてあった。(コンクリート製の丸太階段が急坂に長く続き芝桜の中に飛び出してしまふコースです)大岩が山頂奥にあり北西側に大展望が開けており安達太良山等百名山が見渡せ、時間があつた時など双眼鏡と地図を片手に山座固定するのも楽しまれたい、残雪のある今がわかり易く一番です。昔はここから田母神コースがあつたが今は糠塚コースとなり近年開道と一般者コース、上級者コース、岩登りコースが用意されたようなので一度下見してから当会の山行にと考えています。モスラの頭石とかもあ

◆□□□□□ □□□□□  
 り楽しみになった。他に下蓬田コース、沢又コース、銭神コース(魔道)の登山道があり踏み跡はしっかりありかなり多くが登られていた。注意は下蓬田コース下り分岐が二股にあり境界尾根と登山道を確認してから下山したいものである。下の水場は冷たく皆でいだき急坂の力水となり下山することが出来ました。道中の平田村へ三春町どころもかも桜が満開となり花々の花見山のようなであった。最高の山行となりました。往復観光名所巡りまでサービスされ安全運転いただきました(□□)さん(□□)さん、そして会員方、会計、記録担当と本当にありがとうございました。

◆□□□□□ □□□□□  
 朝八時に二本松市役所に集合し出発した。今回は七名と、現地に三名の参加者です。二本松から二台の車で白沢から四九号に出て平田村に向かう。天候は晴れで桜など花々を見ながら向かった。九時半ジュピアラウンドひらたの駐車場に到着。ND□□さんたちと合流する。トイレを済ませ九時四十分新殿登山口から歩き始めた。尾根に向かって一直線の厳しい登りながら□□さんがリーダーでところどころで休憩し進む。途中水場があり一息入れ、尾根を目

◆□□□□□ □□□□□  
 指す。尾根にたどり着くと少し緩やかかな道になりブナを眺めながら山頂に十一時十分到着した。山頂は眺望がよく阿武隈の山々が望まれた。約一時間お昼休憩し、予定では探索コースを下ることになっていたが、通行中止になっていたのと同じ道を下る。途中グループや一人での登山者に会う。中には茨城県から三時間かけてきた三人組もあり人気の山だと感じた。下りにはゆっくりと無事に下山出来、ジュピアラウンドひらたを通り眺めながら駐車場に二時前に着いた。帰路は平田の道の駅に寄り市役所に四時ごろ到着した。運転してくれた、□□さん、□□さん、□□さんお疲れ様でした。標高九五二なので、山頂は寒いかな?とと思って居たが、厚い一日で汗を流しながら夏山のような日でした。(四月二十六日、受取)

◆□□□□□ □□□□□  
 昔々、国道四九号線を何度通って平田村に何回か来たことがなかった。今度の会山行に参加することにしました。ジュピアラウンドひらたに到着し、駐車場の混んでいるかと心配したが、まだ芝桜のシーズンには早く難なく駐車することができました。登山口は

◆□□□□□ □□□□□  
 植生保護のためか?フェンスが巡らされ入口の扉は閉じられてあった。少し下がったところが登山道のようにだ。参加者全員で記念撮影し登山開始。低山にありがちな急坂の直登コース、意外と厳しい。蓬田新田コースを登って行くと尾根分岐にたどり着く。ここまでくればもう一息。ここで興味深い標識を見る。(この場所)この番号を伝えてくださはいと、消防と警察が情報共有している)山の会として参考になるかもしれないと思いつきながら山頂に向かっている。菅布禰神社に着くと神社脇に蓬田岳山頂の標識が、しかし一等三角点はその先に、ここを山頂と思って引き返そうとする登山者もいる。山頂で眺望を楽しんだ後、神社脇



蓬田岳登山口

◆□□□□□ □□□□□  
 朝八時に、二本松市役所集合で、いざ、ジュピアラウンド平田にある登山口をめざす!途中、花木回地の花??が、気になり、少しまわり道をして、登山口到着。お天気は、暑いぐらいの快晴の中、AM九時三十分、準備運動をして、ゆっくり登り始めました。初めて登る蓬田岳、あんまり、花らしきものが無く、ひたすら山頂目指して:以外と、暑さのせいもあり、汗だくでした??山頂からは、本当なら、海も見えるらしいですが、残念ながら霞んで見えませんでした。ゆっくり山頂で、昼食をして、下山??ジュピアラウンド平田の芝桜、登り始めよって、降りてきたら、咲き始

◆□□□□□ □□□□□  
 でゆっくりと朝食をとる。その後、全員無事下山。帰り道はお久しぶり見頃となった地蔵桜、三春の滝桜を眺めながら集合場所の市役所に戻ってきました。CLの□□さん、参加された皆様お世話になりました。

◆□□□□□ □□□□□  
 八時、市役所集合、車二台でジュピアラウンドひらたの登山口へ向かう。九時四十分登山開始、十一時五十分、九五二の山頂到着。天候はよく山頂からの展望もよかった。たぶん地元の人だと思いが、太平洋や富士山も見ることができるとのこと、残念ながらこの日はそこまでの展望はなかった。山頂付近の菅船神社で約一時間の休憩と昼食を取った。芝桜まつりが開催されていたためか、園内を通るコースは閉鎖されていたので、登りと同じコースを下り十三時四十分に着車場に到着した。この日の芝桜は開花したばかりで見るころはまだだったが、道中の桜はどこも満開であった。往路では郡山の桜の名所の一つ花木回地を通り、帰路は延命地蔵の地蔵桜、三春の瀧桜を見てのドライブとなり山行+桜を楽しむ一日となった。

五月十九日 (日) 第七十回・安達大良山開き



恒例・テラス整列、15時51分



A班 (山頂往復)、B1班 (勢至平-1)

◆A班・□□□ 奥岳登山口、七時四十分頃到着、駐車場手前の道の脇にも車が駐車。第二駐車場車一杯、第三駐車場にも車が入っている。そこから□□副会長が出てきた、一杯だという話。止められるかどうかは別にして、第二駐車場に入ってしまった。一番奥というか、一番西側の崖の前が空いたので止めた。腕章とか装備以外の品物は買物袋に入れて、歩いて奥岳レストハウスへ。ベランダに会の帽子が見え

たので、そこに向かう。會長は来て居て、運営事務局からの当会向けの「ペナント」「バッヂ」「ロープウェイ券」預かる。八時から、レストハウス前では、安全祈願祭始まった。昨年までは山頂で行われていたが、今年からは奥岳だ。祈願祭終了後、紅白の御菓子が配られた、「つるの子」という日夏さんの御菓子だ。ロープウェイは今日は七時半から運行している。祈願祭の最中もひっきりなので、慌てる必要はない。レストハウスのベランダで、八時四十分には居合わせ

た会員十八名で記念撮影(パトロールC班は塩沢登山口なので不在)。 さて、パトロールコースに就いて行動開始だ。私はロープウェイ往復のA班、ロープウェイ大変込んでいて、一つに大人五人入れられた。登山道も渋滞気味。ハクサンシヤクナゲ見付けたが「花芽」は少ない、今年も裏年らしい。木道終了の所で環境省の一行に出会う。去年の勉強会の話などする。以前裏磐梯の事務所に結構顔出していたなんて話したら、「是非お立ち寄り下さい」と言われた。 仙女平分岐、一番奥は込んで居たので、その手前で休憩。ここで「イワカガミ」咲いているの見付ける。例年は夏に咲く花だ。ヤマツツジの蕾も沢山見られる、まだ五月なのに。他のメンバー動こうとしないので、私一人で山頂に向かう、「ミズあだたら」撮影したいのだ。大雪田下で「白いシヨウジョウバカマ」見付けた。大抵はピンクだ。イワナシ・ミネズオウの花も見付けた。まだ四月なのに。「ミズあだたら」コンテストにも間に合った。昨年から准ミズには幼い子が選ばれる、今年もそうだった。市長も□□□さんを入れて記念撮影が済んだ。

十一時二十五分頃から、遠くに県の防災ヘリが現れた。例年の「展示飛行」だ。 ろうと思っ見て居たが、怪我人救助だった。スピーカーから「空けて下さい」などと聞こえる。市の職員などが動き始めた。「自衛隊の制服の所だ」なども聞こえたので、探したら直ぐ横だった。座り込んで居る女性がいる、右足のくるぶし辺り白布ギリギリ巻いてある。直ぐ近くに同行しているらしい男性もいる。ヘリから二人降りてきて、すぐ駆け寄って来た。タンカに乗せて、降下した地点に向かう。山頂を巡回していた防災ヘリが寄って来て怪我人と隊員一人を引き揚げた。次に残っていた一人を引き揚げて、ヘリの戸を閉めて、「協力頂いて感謝します」の台詞残して、東に向かって去っていった。 丁度昼頃の登山客一杯居るところで二十分程救助活動見せてくれた。此の頃から山頂を呼ぶ無線入り始めた、峰ノ辻に着いた、パトロール隊だ。双眼鏡で見ると、帽子の色ですぐ判る。手を振って見たが、判ったろうか。牛の背に向かうのもよく見える。最初に山頂に来たのはB1班、撮影。次にB2班、撮影。最後に湯川溪谷のC班、みんな無事元氣。十四時、山頂には登山客殆どいなくなった。パトロール隊も下山だ。

実は私、去年の十一月に入院、退院してから一度も山に登っていなかった。ロ

ープウェイ使って登ったが、山頂でウロウロしていたら、足が吊った、葉飲んだ。下山途中にも三回吊った、葉飲んだ。なので一人で下がるつもりが□□□さん付いて来てくれた。

ロープウェイ駅の直ぐ上で、先行していた□□副會長に呼ばれた、見慣れない花があるという、見てみたら緑の葉っぱに白い花、オノエランではない、見た事のない花だった。□□會長がスマホで探してくれた。「ツバメオモト」だと言う、安達大良山では見た事の無い花だった。気候温暖化のせいでも今迄無かった花が侵入して来ているのかも知れない。ロープウェイで無事下山、レストハウスで、恒例の整列写真十五時五十分。午後五時から郭内の勤労者研修センターで反省会。今年の山開きも無事に終わった。

◆B1班・□□□ 令和六年五月十九日(日) 奥岳登山口に集合し全体写真の撮影等を行い、八時四十分ごろ登山を開始する。十分のルートは奥岳登山口一馬車道一ぐるがね小屋一峰の辻一山頂一仙女平分岐一奥岳ロープウェイで、メンバーは急遽、□□□さんが体調不良により欠席となったため、□□□、□□□の子供、□□□さん、□□□さん、□□□さん、□□□さん

□□□さんの五名でパトロールを開始した。途中すれ違う登山者を観察すると、早朝からの登山者である方がおられた。そういった方は比較的若い方が多く見られた。パトロール中、時間が経過するにつれ気温の上昇がみられたため体温調節及び水分補給を行いながら危険箇所を確認しながら引き続き山頂へ向かった。途中、くろがね小屋周辺で昼食とした。ここは山開き数日前に仮設トイレの建設が行われており、清潔なトイレが設置されていた。これについては、携帯トイレを購入しているが自然保護の観点からも今後重要な課題の一つでもあると感じた。山頂へ向け出発すると、途中ヘリコプターのホバリング音が聞こえ、山の会本部と無線交信するが返答なくおそろしく救助事案と判断しさらに山頂を目指す。すれ違う登山者の方たちに体調不良者は引き続き見当たらず、山頂に到着する。山頂にて各コースメンバーと合流し、下山開始する。山頂からゴンドラに向けては登山道の痛みの激しい箇所もあり修復が必要な箇所も見受けられた。およそ十五時頃にゴンドラ乗り場に到着し本部に報告。メンバー及び途中の登山者についても怪我や急病者の発生もなくパトロールを無事終了した。

山開き (続き)



B2班 (勢至平-2)

◆B2班・□□□□□□  
八時、奥岳集合。駐車場から急いで準備をし、集場所へ向かう。久しぶりのパトロール参加、いろいろ心配。打合せのあと八時四十五分、出発し馬車道を登り始める。風もなく日射しが暑く汗をかく。九時四十分休憩。くろがね小屋を建てるための準備のためか馬車道が少し荒れている気がした。十一時四十五分、

勢至平分岐から筆山の下經由峰の辻へ。ミネズオウ、ヤマシヨウジヨウバカマ、ヤマツツジなどの花が咲いていた。途中でドクターヘリが飛び立つのが見えた。下ってくる方達が怪我人が運ばれたと教えてくれる。峰の辻で昼食。十二時四十分、峰の辻出発。十三時十一分、沼の平分岐、牛の背經由で山頂へ。十三時四十分、山頂到着で皆さんと合流。到

着時間が遅かったため記念撮影後は早々に下山開始。十四時三十一分、表登山口分岐を過ぎ、石のころころした眺めの良いところで、先に下りて来ていた方たちと一緒に和やかに休憩。十五時十六分、ゴンドラ山頂駅に到着。山頂駅近くにはツバメオモトの花が咲いている。□□□さんから珍しいのだと教えていただきました。十五時三十分、奥岳到着。全員揃って記念撮影。久しぶりの山開きでしたが、同行してくださった皆さんのお陰で何とか登れました。ありがとうございます。山開きに初々しいお顔が増えて良かったです。

◆C班・□□□□□□  
「ほんとうの空」「安達太良山」「山開き」のパワワードに加え、今年は「七十周年」。待ちに待った山開き。塩沢登山口班八名は、バスが到着した八時半を待って出発。自然のアスレチック&アドベンチャーパークのような塩沢登山道。山の会の登山道整備により橋や鎖場の足場の安全性、安心感が増しより歩きやすい道になっており、ヤッホーと駆け出したいくらい。分岐点では、迷っている人がいないかと隊長さんによる声かけ。この声かけがどれだけ大事か。共に登ったIさんは、雪の残る山開きだった年に全く違う道を進ん



C班 (湯川溪谷)

でしまったそうで、その時の山の会の方の声かけがなかったら遭難していたとのこと。改めて山の会の活動の重要さを知るエピソード。十時屏風岩到着。見学。蝉の声をきく。その後、くろがね小屋前に設置された仮設トイレを見学し、山頂へ。途中、下山する多くの方々とすれ違う。ペナント、ピンバッジをゲットした人あり。朝五時半に登り始めたとのこと。そして、昼食の後、山頂へ。牛の背か

ら山頂の赤い帽子の集団を見つけた時の喜びは、山手線で知人を見つけた時に匹敵(大げさ)。□□□さんも観光課の方々も皆下山した中、ずっと待っていてくれた山の会の方々と合流。記念撮影の後ゴンドラにて下山。追記:「塩沢は、足踏み外すと止まるとこないから下まで滑落するんだよ」。下山後の隊長さんのお話に、駆け出さなくて良かったとそっと胸を撫で下ろした私でした。

福島県では県政の発展や住民福祉の向上に多大の功績のあった方を、知事が県民を代表して表彰しています(県HPから)。  
今年、当会の副会長、□□□さんが、自然保護功労で、五月三日、表彰されました。  
会員・□□□さん  
五月二十九日、地域の環境保全活動などに取り組む団体・個人をたたえる、「うつくしま、ふくしま」環境顕彰、で個人表彰。十五年前から海岸清掃、県民の模範となっている(福島民報の記事から)。



2023年4月29日撮影

◇自然保護功労  
大玉村 さん 73  
2008年以  
来16年余の長  
きにわたり、県  
自然保護指導員  
として、磐梯朝日国立公園の環  
境保全活動や美化をひたすら、  
自然保護の推進に寄与した。

5月3日の民友新聞

「おめでとうございます」  
□□□副会長



山開き反省会 (勤労者研修センター)

個人山行・□□□□

四月七日(日) 回太山・誕生登山



四月八日は私の八十四歳の誕生日である。今迄何回か誕生登山。何年前になるだろう、ニッ箭山に行った時知っていたのかケーキを持って来てくれ、昼休みに祝いをして頂いた事、忘れる事が出来ない。今年は何回目の千支(えと)の年、安達太良にでもと考えていたが、天気がいまいち、一日早めに口太山へ行く。久しぶりの川俣町、大綱木より入山する。今回はキャンプ場より急登の石尊神社コースに挑戦する事にした。キャンプ場で軽く昼食をし、十二時二十分に入山する。古い桑畑を登り、二輪草の群生地、まだ早く花は無い。ジグザグの登りを過ぎ尾根に取り付く。小休憩。ゆっくりマイペースで登る。コース半分位が急な登りとなり、トラロープを頼

四月十四日(日) (会山行) 蓬田岳



会山行蓬田岳に参加したかったのだが、先日口太山山行の時を思うと、皆さんに迷惑をかけるのではないかと思ひ、個人山行で行く。元会員のSさんを誘ったら一緒にしたいとの事、菅原さんにも電話し用事があったらしいが無理を言いつづけて貰う事になる。会山行より三十分早く出発。途中三春で渋滞に巻き込まれ三分のロスとなり、蓬田岳駐車場では会山行の人達と一緒にいる。少し早めに

りながら休み休み登る。トラロープが左の時はトラロープが右側になると杖が左になる。杖の突く所が判らず、杖がスリップ。役立たずだった。石尊神社が見えたときは山頂に着いたと安心。休み休みだったが、登る事が出来た。山頂一時四十分に着く。夏無浴から登って来たという男性一人と会う。一人遅い昼食を楽しみ、下山は「猿の首取」コースを下山。駐車場三時に下山する。歩幅も狭く、体力も落ちて来て居る事を感じ、団体での登山では皆さんに迷惑をかけてしまうのではと思える様になって来た。マイペースで時間をかければ、今少し山頂を楽しめる事が出るのではないかとと思う。

四月二十八日(日)

花塚山山開き



四月二十八日(日)「花塚山」山開きへ、七時三十分

報告 □□□□

分、J A川俣集合。□□□□さんと七時五十分登山口の花塚の里登山口へ。既に駐車場は五十台以上で道路に案内され、そこでパッチ、手ぬぐい、ソバの三百円、パンフを受取り、八時放鹿神社の山開き開始に立合い、花火に力づけられ、二五七番で出発しました。川俣は□□□□さんの地元で多くの人が声掛けられて、ホッコリ。出発式で□□□□さんとも合流し、三人で登り始める。県内外からの多くの人がびっくりに。小三の子供一人と夫婦、若い人五名など、以下は少なく、六十歳以上と思われる高齢者ばかり、それと登りました。

五月十二日(日) 回太山山開き

五月十二日は口太山の山開き。田植えも終わり、気持ちに針道コース(夏無沼)から入る。家を八時、途中オヤツを買求める。登山口駐車場には駐車場の誘導者が三〜四人。登山口には受付、やはり三〜四人がいた。登山口には横断幕や



山頂広場からその上の山頂「乳首」へ登る東側の道、一部にクサリ場があった。近年、その東側で崩落が起き、取り付く足場が無くなってしまった。滑落事故も起きた。今年旧クサリ場に梯子が設置された。「乳首」に「上り」と「下り」のはしごが設置された訳だ。両方ともよく見えるので、東側を上り西側を下りとして、「一方通行」判りやすくなったと思う。

山頂には「はしご」設置

編集後記 四二八号

◆記事沢山で、五頁になった。湯川溪谷整備、仮設トイレプイス、山頂はしご設置など来月号になります。◆五月十八日民報「みんなの広場」□□□□さん投稿「道路路の美化に尽きぬ感謝」。◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いので、が、手書きも歓迎、FAXも受信できます。

行者展し、行合道、屏風岩、体内くぐり岩を巡り、九時に九一八mの山頂へ。途中イワカガミの見所を廻り、ムラサキのツツジが見て心が癒やされました。山頂で三人を撮り、峠の森自然公園へ下山するとソバが三百円で食べられ、バスで花塚の里の登山口へ送って貰えるとの事で花塚の山を一周する事に。途中小名浜からの登山者ともう一人知人と五名でソバをめぐり、楽しくカタクリの花、スミレを見て十時五十分、峠の森自然公園に新たに出来た、キャンプ場でソバにあたりつく。三十度以上の暑さ、北限の富士山は見られなかったが最高の山行でした。十一時四十分、五名で花塚の里に戻り解散しました。あだたら山の会でも、こんな楽しい山行も多ければと思います。